

第一朗読 出エジプト記 20:1-17.

神はこれらすべての言葉を告げられた。

「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。

あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。

あなたはいかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にあるいかなるものの形も造ってはならない。

あなたはそれらに向 かってひれ伏したり、それらに仕えたりしてはならない。

わたしは主、あなたの神。わたしは熱情の神である。わたしを否む者には、父祖の罪を子孫に三代、四代までも問うが、わたしを愛しわたしの戒めを守る者には、幾千代にも及ぶ慈しみを与える。

あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。みだりにその名を唱える者を主は罰せずにはおられない。

安息日を心に留め、これを聖別せよ。

六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである。

あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる。

殺してはならない。

姦淫してはならない。

盗んではならない。

隣人に関して偽証してはならない。

隣人の家を欲してはならない。

隣人の妻、男女の奴隷、牛、ろばなど隣人のものを一切欲してはならない。」

**福音朗読**    ヨハネ 2 : 13-25

ユダヤ人の過越祭が近づいたので、イエスはエルサレムへ上って行かれた。そして、神殿の境内で牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って両替をしている者たちを御覧になった。イエスは縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し、鳩を売る者たちに言われた。「このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない。」弟子たちは、「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」と書いてあるのを思い出した。ユダヤ人たちはイエスに、「あなたは、こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せるつもりか」と言った。イエスは答えて言われた。「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。」それでユダヤ人たちは、「この神殿は建てるのに四十六年もかかったのに、あなたは三日で建て直すのか」と言った。イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。イエスが死者の中から復活されたとき、弟子たちは、イエスがこう言われたのを思い出し、聖書とイエスの語られた言葉とを信じた。

イエスは過越祭の間エルサレムにおられたが、そのなさったしるしを見て、多くの人がイエスの名を信じた。しかし、イエス御自身は彼らを信用されなかった。それは、すべての人のことを知っておられ、人間についてだれからも証ししてもらわなければならないからである。イエスは、何が人間の心の中にあるかをよく知っておられたのである。

**説教**

いまの社会は文字で規律を定めて社会、国家の運用の助けとしています。文字で定めた規律のことを憲法・法律とっています。十戒はいままでいう憲法に相当し、法律は律法にあたります。きょうの第一朗読では十戒伝授のようすを読みました。聖書では続けて法令集が示され、その後契約締結の儀式、石板（十戒が記されたもの）の授与となります。

十戒は十のことばだ、という見方があります。十戒はいましめとして授けたのではない、神はヒトを愛しているから十戒を授けたのであって、破ったら罰するという意味合いではない、だから戒めではなくおことばなのだ、というソフト解釈するちょっと甘めの見方でしょう。しかし文字通り十戒を受け止め、それをどのように解釈してどう実行するかは太古のイスラエル人たちだけではなく、後代のキリスト教徒にもおおきな影響を与えました。

福音書には十戒、律法の新たな解釈をした人物が登場します。それがイエス・キリストです。きょうの福音朗読ではイエスは神殿商人たちを蹴散らします。彼らは律法を犯して神殿で違反な商売をしていたわけではなく、律法に基づいて（ちゃんと許可を得て）いけにえの動物や献金用の両替をおこなっていたはずです。でも律法新解釈派のイエスはこういいます。

**わたしの父の家を商売の家としてはならない。** ヨハネ 2 : 16

福音書ではほかにも安息日論争、二つの掟、律法について、金持ちの青年（下記の注に参照箇所）など、イエスは十戒、律法の新解釈を披露して律法学者たちと対立したようすが記録されています。

十戒、律法の新解釈を実践したイエスは旧主流派によって十字架につけられますが、復活してイエスの真実、神のまことを証しました。復活のイエスに会ったヒトのなかでもっとも後世に影響力がある人（元律法主義者パウロ）はこういいます。

**神はわたしたちに、新しい契約に仕える資格、文字ではなく霊に仕える資格を与えてくださいました。文字は殺しますが、霊は生かします。** 第二コリント 3:6

パウロが保証しているように、わたしたちは神が与えてくれた「新しい契

約」に仕える資格があります。新しい契約、略して新約とはイエスの福音であり、ヒトを殺す「文字」に従うことではなくヒトを生かす「霊」に仕えることです。神はモーセに石の板を渡しました。また神は、ひとり子を世に送り新しい契約を示されました。わたしたちが福音と呼び、また霊とも呼んでいるものです。それはけっして文字で書かれるものではありません。破る、守るという意味合いは通用しません。だから、律法さえ守っていればいい、福音さえ守っていれば救われる、というものではありません。イエス・キリストをとおしてわたしたちの心の中に刻まれた神の愛です。わたしたち一人ひとりがそれを受け取り、心に刻まれた神のことばを信じ、希望をもって生きることができますように。

---

(注) の聖書箇所

安息日論争： マタイ 12：1 マルコ 2：23 ルカ 6：1

二つの掟： マタイ 22：34 マルコ 12：28 ルカ 10：25

律法について： マタイ 11：12 マルコ 5：18 ルカ 16：16

金持ちの青年： マタイ 19：16 マルコ 10：17 ルカ 18：18